



# デメテル Demeter

群馬県立自然史博物館だより No.52

Newsletter of Gunma Museum of Natural History 2011.秋・冬

デメテルはギリシャ神話に登場する大地の女神で、群馬県立自然史博物館のシンボルマークになっています。

**開館15周年記念企画展** **よみがえる! 謎の巨大恐竜** **スピノサウルス**  
2011 9.23~11.20  
後期展示のみどころ

9700万年ぶりの「再会!」

カルカロドントサウルス VS スピノサウルス

所蔵 国立科学博物館

世界初!  
公開に向け、製作中!  
実物大、そして色まで復元されたトロオドン類!  
アンキオルニス

巨大な腕!  
デイクェイルス

スピノサウルスの全長17メートルの迫力、ご体感いただけたでしょうか。リニューアルを経て9月23日からの後期展示では、1メートル近い長さがあるスピノサウルスの吻部をはじめ、巨大な腕しか見つかっていないデイクェイルス、近年の研究でからだの色がわかったアンキオルニスの実物大生体復元模型、またスキピオニクスの全身骨格も加わり、スピノサウルスと獣脚類の秘密にもっと迫っていきます。さらにカルカロドントサウルスの頭骨もお目見えし、9700万年の時を経て、エジプトから遠く離れた群馬で再びスピノサウルスと相まみえます。ご来館をお待ちしています! (学芸係 高桑祐司)

## 【企画展イベント】(11月20日まで)

9/18・11/20 自然教室 (講師: 高橋 秀武 [当館教育普及係])  
「恐竜時代のコハクでストラップをつくろう」

9/25 学芸員による特別解説 (担当: 高桑祐司 [当館学芸係])  
「スピノサウルス」

10/2 AM 自然教室 (講師: 徳川 広和 [恐竜造形作家])  
「恐竜復元イラストに挑戦!」

10/2 PM 自然教室 (講師: 徳川 広和 [恐竜造形作家])  
「恐竜復元模型をつくろう!」

10/16 自然教室 (講師: 久保田 克博 [神流町恐竜センター学芸員])  
「恐竜時代の地層から化石を発掘しよう」

11/5 講演会 (講師: 真鍋 真 [国立科学博物館研究主幹])  
「最新恐竜学: ティランノサウルスvsトリケラトプス」

※詳しい内容 (日程・会場・申込方法・費用) については当館HPまたはお電話でご確認ください。

# 「震災と博物館と標本」

東日本大震災では多くの美術館・博物館なども大きな被害を被りました。それらの機関に収蔵されていた標本などの救出のため文化庁が中心となり全国の博物館・美術館や関連機関に所属する人々によってレスキュー活動が行われています。大震災からまもなく4ヶ月になろうとする頃、私も石巻市牡鹿町にある「おしかホエールランド」などに収蔵されていた標本のレスキュー活動に参加しました。

ホエールランドの館内は、復旧活動によってほとんどのがれきは撤去されていました。しかし、窓ガラスが割れた館内には、骨組みだけになった天井から照明器具が垂れ下がり、壁には水位を表す汚れが残っているなど、当時のすさまじい様子がうかがえました。今回は館内に残された標本などを、収蔵設備の整った機関へと移送することが目的です。エントランス近くにあった標本の梱包・運搬作業を終え、奥の展示室に向って暗い館内を進んでいくと、周囲はまだ乾燥していないのか、すこしひんやりとして独特の臭いがあります。ヘッドライトの明かりに、天井から吊されたマッコウジラの全身骨格標本が浮かび上がってきました。幸い大きな損傷は受けていないようですが、骨格のあちこちにゴミが引っかかっており、完全に津波にのみ込まれたこと



標本の梱包作業



カズハゴンドウの液浸標本のレスキュー

がわかります。その奥の展示室には、体長約2.5メートルのイルカ（カズハゴンドウ）の液浸標本があり、大勢で手分けしてなんとかレスキューすることができました。

例えば自然系の博物館では、自然に関する知を収集し、見だし、そして伝えていくという役割と責任があります。これは他の博物館などでも、分野の違いはあるにせよ、同様です。その核となる標本などが失われるということは、単に標本そのものを失うということだけではなく、私たちの文化そのものが失われるということになるのではないのでしょうか。翻って、今回の大震災によって被害を被った標本や資料などのレスキュー活動は、生活や経済などの復興に直接結びつくものではないかもしれませんが、しかし、それを抜きにしては本当の意味での復興はあり得ないのではないかと思います。最後になりましたが、被災された方々には心よりお見舞い申し上げます。

(学芸係 木村敏之)



ホエールランド前(牡鹿港)の様子

自然の  
フォトギャラリー

## 埴 沙萌 写真展「草と木のエコロジー」



ヒノキの芽ばえ 撮影:埴 沙萌

開催期間:2012年1月1日(日)~2月26日(日)  
会場:当館企画展示室(入場には、常設展の観覧券が必要です。)

埴 沙萌。サボテンを愛し、植物を愛し、自然を愛する彼は、いつしか"植物写真家"と呼ばれるようになった。植物の生きる"いとなみ"に感動し、その姿を残したいという埴 沙萌の作品には、植物への愛と尊敬に満ちあふれている。





# 群馬県レッドデータブック改訂

レッドデータブック。聞き慣れない言葉ですが、これは、絶滅してしまった生物や絶滅の恐れのある生物について書かれている本のことです。

群馬県では、2001年に植物編、2002年に動物編が発行されました。そこには、県内で絶滅の危機に瀕している(絶滅危惧種)植物183種、動物231種、また、存続基盤が脆弱である(準絶滅危惧種)植物11種、動物134種が記載されています。これに絶滅種や希少種などを加えると、総計で植物382種類、動物526種類が記載されました(図1)。

そして、2011年度、このレッドデータブックが10年ぶりに改訂されます。現在、文献調査、標本調査、現地調査をしながら、リストにのせる野生生物種と、そのランク付けを再評価しています。環境省の指針では、より客観的なデータに基づく生物種の指定とランク付けが求められていますので、「県内のどこにながどれだけいた」という情報や、調査の際に採集され「採集日や採集地点などの情報がともなっている標本資料」などの物的証拠がとて大切にになっています。

自然史博物館では、これまで多くの方々のご支援・ご協力をいただきながら、明治時代以降から現在までの県内の野生生物に関わるたくさんの標本資料や情報を収蔵してきました。今回の見直し作業では、開館以来15年に渡って蓄積されてきたこれら県有財産をフル活用しています。

私が担当している哺乳類では、野生動物の目撃、痕跡発見、採取などのデータや標本を見返しながら、地理情報システム(GIS)を使って、その位置情報を地図上におとし、データベース化しています。近年、Googleなどで衛星写真がインターネット上で簡単にみられるようになったのと同じように、パソコン上で動物の記録がある地域の昔の空中写真と今の空中写真が簡単に比較できます。そし



図2 捕獲されたクマ 提供:自然環境課

て、過去数十年の間にどのくらい環境が変わったのか、これからも野生動物が棲息していくことができるのかなどを検討しています。

この分析で得た例をいくつかあげます。日本一小さいネズミ・カヤネズミ(絶滅危惧II類)が棲息している里山や河川敷のカヤ原が、約20年の間に開発などによって急速に減少し、棲息域が危機的状況にあることが改めて確認されました。また、ツキノワグマ(注目種)(図2)が生息するブナ・コナラなどの広葉樹林も、伐採され人工林の針葉樹林化されています。さらに、生息地が、道路網の発達や宅地造成などによって分断・縮小され、危険な状態にあることもみえてきました。農業被害、人身被害をもたらすとして行われている有害捕獲も、個体群に対して大きな影響を与えている種もあります。例えば、群馬県ではまだありませんが、西日本などでは、ツキノワグマがスギ・ヒノキなどの植林木の樹皮を剥いで被害をおよぼすことから、人工林内での捕獲が進められた時期があり、短期間のうちに、クマを絶滅、あるいは、絶滅に近いところまで追い込むほどの影響を与えたことも広く知られています。

前回のレッドデータブックが発行されてから10年、私たちの生活は変わり、それとともに野生生物をとりまく環境も大きく変化してきました。次回、レッドデータブックが改訂されるのは、おそらく10年後でしょう。未来の私たちは、ぐんまの自然とどのように向き合っているのでしょうか。

未来を見据え、今ある情報を正しく評価し、伝えるために、慎重な作業が続いています。

(学芸係 姉崎智子)

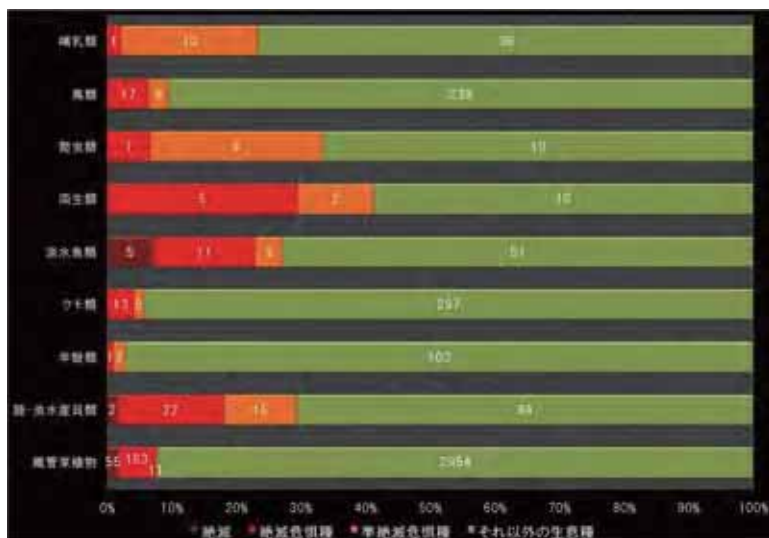


図1 群馬県内の絶滅が危惧される野生動植物の割合

# 移動博物館



当館では、1年間に3回移動博物館を開催しています。これは、自然史博物館の収蔵資料を学校や公民館等へ持参し、展示及び教育普及活動を行い、県民の皆様に自然に対する興味関心を高めていただくことを目的としています。平成10年度から開催し、平成22年度まで約30,000の方が見学しています。展示資料は、平成10年度は92点でしたが、徐々に増やし、現在では150点近くになりました。近年では、アライグマやカミツキガメ、ガビチョウなど特定外来生物に焦点を当てた展示や開催地域に関連深い資料を充実させるなどの工夫を心がけています。また、ワクワクドキドキの体験活動も行っています。内容は「飛ぶタネの模型づくり」や「アンモナイト化石のレプリカづくり」などです。

毎年、当館から比較的遠い県内小学校や養護学校、公民館などに共催開催希望申込書を配布しています。是非一度開催してみたいはいかがでしょうか。

(教育普及係 武井郁也)



展示の様子 (大型恐竜の頭骨)

## シリーズ 尾瀬植物散歩 その3

## 減少する? オゼコウホネ



オゼコウホネ (群馬県尾瀬ヶ原)

尾瀬ヶ原に無数に点在して風景にアクセントをつける池塘。その池塘を代表する水草としてオゼコウホネとヒツジグサがあげられます。1950年代に行われた第1回の総合学術調査以降1990年代に行われた第3回の総合学術調査までにヒツジグサが増加傾向にあるのに対して、オゼコウホネが減少傾向にあることが報告されています。この傾向は木道が湿原の中心部を通る上田代が顕著で、木道のない背中アブリ田代ではみられません。オゼコウホネが減少した理由は不明のままです。オゼコウホネは、めしべの柱頭の色が赤色であることから、ネ

ムロコウホネの変種として位置づけられます。柱頭の色が変わる現象はネムロコウホネ (広義) のほか本州のオグラコウホネ (広義) でも知られています。いずれにせよ、北半球の高緯度地方に生育するネムロコウホネ (広義) の南限として尾瀬ヶ原は世界的に重要な位置にあります。見分けが付きやすく木道沿いの池塘にもみられるオゼコウホネの分布がどうなるか気になるところですが、皆さんも定点や観察ルートを決めて記録をとられてはいかがでしょうか。

(学芸係 大森威宏)

### 利用案内

- 開館時間 午前9:30～午後5:00(入館は午後4:30まで)
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日)
- 観覧料

	一般	高校・大学生
常設展のみ開催	500円	300円
第38回企画展開催時 (H23.7.16～11.20)	700円	400円

※中学生以下、身体障害者手帳・療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方及びその介護者1名は無料  
※有料者20名以上は団体料金で2割引となります

### 群馬県立自然史博物館だより Demeter No.52

編集・発行 群馬県立自然史博物館  
〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1  
Tel.0274-60-1200 Fax.0274-60-1250  
ホームページ  
<http://www.gmnh.pref.gunma.jp/>